

とばし教育委員会 だより

2018. 1. 1 第12号



放課後子ども教室「あらっこ」 凧作りに挑戦

11月15日(水)に放課後子ども教室「あらっこ」で、鳥羽市青少年育成市民会議の凧作り教室を開催しました。子どもたちは思い思いの絵柄を描き、竹ひごを貼り、糸を通してオリジナルの凧を完成させると、小学校のグラウンドに出て、凧揚げを楽しみました。

1月3日(水) 10時より、鳥羽高校グラウンドにて「第16回新春凧揚げ大会」が開催されます。当日は各自持参した色とりどりの凧を揚げ、ふるまいや子ども抽選会も行われる予定です。どなたでも自由にご参加いただけますので、ぜひお越しください。

より良い授業を目指して ～学校における授業づくりの研究～

子どもたちの力を伸ばし、子どもたちにとって日々の授業が「わかる授業」となることを目指して、全ての学校で先生方による「授業づくり」の研究が行われています。また、この研究を効果的に進める手立てとして、「授業研究会」や「研究発表会」などが行われています。

《各校における研究の主な進め方》

【課題をつかむ】

- 地域や保護者の願い
- 学校の教育目標
- 子どもの実態、学校の課題



【研究仮説を立てる】

この取り組みをしたら、子どもの力が伸びるだろうという仮説を立て、学校全体で研究を進めます。

【研究主題を設定する】

主題を設定し教職員全体で共有します。先生たちは日々の授業を土台として課題の解決に取り組みます。

今年度の研究主題(研究指定校)

- 弘道小学校 「自己の生き方を見つめ、考えを深め、ともによりよく生きようとする子どもの育成」
～自分の考えを表現、交流し合うことで、生き方について考えを深める子ども～
- 答志中学校 「表現力」豊かな生徒をめざして ～「言語活動」を視点として～

《授業研究会》



「授業研究会」では、先生が授業を参観して、日々の取り組みの確認や、より良い授業の進め方などを研究します。



授業研究会前には先生が子ども役となって、模擬授業をするときもあります。



他県から講師の先生を招いて教えてもらうこともあります。

授業研究会後の研修会では気づいたことや改善点を出し合います。



《研究発表会》

教育委員会では、他の学校の研究の推進役となる「研究指定校」を毎年定め(小学校は1年毎に輪番、中学校は2年毎に輪番)、「研究発表会」を通して日々の研究の成果を広く公開しています。

授業の公開や研究成果の発表が行われる研究発表会には、市内外から多くの方が来校します。



そして、研究発表会で新たに見えた課題の解決に向け、先生方は日々の研究を続けています。





はまぐち まさひさ
濱口 正久さん
寝屋子の島留学実施委員会
会長。答志島で生まれ
育ち、答志中学校PTA会
長や、答志地区青少年育
成会会長、答志和具町内
会副会長などを歴任。答
志コミュニティスクール
実行委員会の設立も行
い、地域の将来を考えた
活動を行っている。

「寝屋子の島留学」に込めた想い
〜地域の中で愛される子どもたち〜

平成27年11月に発表された「鳥羽市小中学校統合計画」に私たちは衝撃を受けました。そこには答志中学校が平成34年に統合と書かれていました。

それまでは、生徒数も60名を超え、クラブ活動も盛んで、特に女子ソフトボール部においては、ここ5年間に三重県大会で優勝2回、準優勝2回、全国大会出場と好成績を収め、むしろ活気に満ち溢れていると感じていました。

この計画は私たちに「地域の未来の姿」を教えてくれました。そして、島の未来を考えるきっかけになりました。私たちは話し合いを重ね、地域の想い、保護者の想い、そして子どもたちの想いを確認しました。ただ存続させるだけでなく、活気のある学校、元気な島にするため、島へ留学生を受け入れる覚悟を決めました。

親が子どもに望むことは、自分がいなくても自立していけること、生きる力をつけることです。そのため必要なものは無償の「愛」ただそれだけです。人生の大切な思春期に受けた愛は生涯の宝物になるはずですよ。私たちは「寝屋子の島留学」に、そんな願いを込めて取り組んでいきます。

子育てから子育てへ。親離れから子離れへ。我が愛すべき地域の中で、大人たちのやさしさに包まれ、子どもたちが笑顔で元気に走りまわり続けられることを、私は信じて止みません。

古文書を読み解き、昔の鳥羽を知る
〜古文書解読講座〜

みなさんは、テレビ番組などで、ミミズのよ
うな字で書かれた古文書をみたことがあると思
います。何が書いてあるか読めたらいいと思
いませんか？

古文書が読めると、昔の人々の生活や歴史を
知ることが出来ます。

図書館では、平成21年度から古文書解読講座
を開催しています。講師には三重県総合博物館
の太田光俊さんをお迎えし、古文書解読のため
の基礎的な知識や解読のポイントを、わかりや
すく解説していただいています。

テキストには、鳥羽に残る古文書を取り上げ
ており、より身近に感じてもらうことを目指し
ています。今年度は、「九鬼氏」に関する古文書
をテキストとして、現在11名が学んでいます。
古文書が読めるようになれば、今までわから
なかった昔の鳥羽がみえてくるかもしれません
。興味のあるかたは図書館にお問い合わせく
ださい。

平成28年度のテキスト「志國清平記」を解読し
た報告書を3月に発行予定です。



解読講座の様子



志國清平記表紙

古文書
解読講座の
お知らせ

今後の開催日
1月19日(金)
2月16日(金)
3月16日(金)

時間
午後6時から
午後8時

場所
市立図書館
2階会議室

問い合わせ先
26-4555
(市立図書館)



鳥羽から世界へ「継続は力なり」

鳥羽フェンシングクラブ

鳥羽フェンシングクラブは、県内大会や全国大会等に出場し、数々の実績を残しています。これまで、日本代表として8名の選手を送り出し、高校や大学に進学してからも日本代表として活躍している選手もいます。特に山田姉弟は日本のトップ選手としてオリンピックを目指し、国内だけでなく国際大会等にも数多く出場し、実績を上げています。12月に開催された全日本選手権では、史上初となる姉弟での全日本優勝を果たしました。この2人に続けと、世界を目指す子どもたちもクラブから出てきています。

フェンシングは特殊な競技と思われる方もいますが、運動神経の良い選手が強くなるとは限りません。継続して競技を続けることにより成長していく選手が数多くいます。

オリンピック銀メダリストの太田雄貴氏（現在、公益社団法人日本フェンシング協会会長）も「継続は力なり」と言っており、本人も小さなころからフェンシングを始め、実績を残してきました。

平成33年「三重とこわか国体」でフェンシング競技は鳥羽市で開催されるので、「継続は力なり」を忘れず育成強化を行い、鳥羽から国体選手の輩出、さらにはオリンピック選手を輩出できるよう指導しています。



異学年交流活動の充実へ

加茂小学校の取り組み

加茂小学校では、平成29年度より、1年～6年までの異なる学年の子どもたちが一緒に活動する「異学年交流活動」を教育の大きな柱としています。従来からも、各種の委員会活動や臨時的に運動会、遠足等で実施していましたが、本年度からは1年間を通して学校生活全般で、全校児童を16班に分けた「たてわり班」を核とした活動を行っています。ねらいは「リーダー性の育成」「コミュニケーション能力の向上」です。「たてわり遊び」「たてわり給食」「たてわり体力測定」をはじめ、中心は毎日の「たてわり掃除」と毎週の「たてわり全校

朝活」、月1回の「全校遊び」などを行っています。「たてわり掃除」では、6年生が分担を決めたり、1年生を優しく教えたりする中で、責任感やたくましさが出てきました。「全校朝活」や「たてわり遊び」をする中で、あいさつの声が大きくなったり、集会で感想を進んで発表する子どもや、普段から異なる学年でドッジボールや鬼ごっこをする子どもが増えてきました。



文化財紹介 旧鳥羽小学校

鳥羽城の史跡内に建つ、旧鳥羽小学校校舎は昭和4年に建築された県内に現存する最古級のコンクリート建造物で、昭和初期の学校建築を伝える貴重な建物です。平成20年には、国登録有形文化財に登録され、市教育委員会は、校舎の保存と活用のために、国の補助を受けながら、整備を進めてきています。

平成29年度からは、建物の保存のために必要な耐震、防水工事などの取り組みを始めていきますが、校舎建物の保存整備は、国の補助事業の活用や優先する他のハード事業の進捗状況を見なが

ら進める必要があり、長期にわたって少しずつ整備を行っていくこととなります。

このようなことから、その後の校舎の利活用についての整備は、活用内容や使用範囲などについて、文化財収蔵・展示機能のほか、新たな提案も考慮しながら進めていく予定です。



ご意見ご要望をお寄せ下さい